

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
山陰中央専門大学校	平成18年2月6日	大島 宏美	〒690-0001 島根県松江市東朝日町75-12 (電話) 0852-31-5500																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 坪内学園	昭和44年11月8日	坪内 浩一	〒690-0001 島根県松江市東朝日町74 (電話) 0852-31-1500																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
教育・社会福祉	専門課程	こども総合学科	平成25年文部科学省 告示第2号	-																			
学科の目的	教育・社会福祉業界の要望に応えた専門的な教育により、職業人(保育士・幼稚園教諭)として必要な知識及び技能を修得させるとともに、国家資格や各種資格を取得させ、教育・社会福祉業界に貢献できる優秀な人材を育成する。																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2	昼間	128	46	75	6	0	1																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
100人	67人	0人	7人	14人	21人																		
学期制度	■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～11月30日 ■3学期:12月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、課題などの評価資料に基づいて総合的に定める。基準は次の通り。 「A(優)」90～100 「B(良)」80～89 「C(可)」70～79 「*(不可)」70未満																			
長期休み	■学年始:4月6日 ■夏季:8月1日～8月27日 ■冬季:12月26日～1月7日 ■学年末:3月12日		卒業・進級条件	卒業:以下の単位以上の教育時間数を修得すること。 128単位以上の単位数を修得すること。 進級条件:各年度に設定された単位及び教育時間数を修得すること。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に保護者面談、三者面談を行っている。 又、必要と思われる学生に対し随時個別面談を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ボランティア活動、部活遠征等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に關する平成30年5月1日時点の情報)																			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 幼稚園、保育園、障害者施設等、教育・社会福祉業界 ■就職指導内容 面接および作文指導 各種文書作成に対する指導 ■卒業者数 : 44 人 ■就職希望者数 : 44 人 ■就職者数 : 44 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 特になし (平成 29 年度卒業者に關する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>44人</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定 ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>44人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>食生活アドバイザー</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士	①	44人	44人	ビジネス能力検定 ジョブパス3級	③	44人	38人	食生活アドバイザー	③	3人	2人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
保育士	①	44人	44人																				
ビジネス能力検定 ジョブパス3級	③	44人	38人																				
食生活アドバイザー	③	3人	2人																				
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成29年4月1日時点において、在学者84名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者83名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学生の進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 家庭訪問を実施するなど、学校、学生、保護者の連携を密にしている。		■中退率	1.2 %																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ※有の場合、制度内容を記入 ①指定校推薦入試(入学金50,000円～100,000円免除:初年度のみ) ②一般推薦入試(入学金20,000円免除:初年度のみ) ③特待奨学金付与制度(授業料200,000円～300,000円付与・初年度のみ 進級時に特待再選考試験あり) ④女子特待奨学生制度(授業料100,000円付与・初年度のみ 定員各コース2名) ⑤音楽/スポーツ特待奨学生制度(授業料100,000円付与・初年度のみ 定員各コース2名) ⑥上級資格取得者奨学金付与制度(授業料20,000円付与・初年度のみ) ⑦学業支援授業料減免制度(授業料200,000円免除:毎年 他の同学年と合わせて定員8名) ⑧父母兄弟姉妹奨学金免除制度(入学金100,000円免除:初年度のみ) ■専門実践教育訓練給付: (有)無 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年度実績なし																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	<a href="http://sicc.setg.ac.jp/">http://sicc.setg.ac.jp/</a>																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

<p>1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係</p> <p>(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>学生の主な就業先である自動車業界における人材の専門性に関する動向、社会情勢、また企業等の成長や変化に伴い必要となる新たな、知識、技能等を企業等との連携により授業カリキュラム内に取り入れる。企業等参加の公開授業の実施・授業後のアンケート及び意見交換、学生の実務実習、教員研修といった授業・実習・研修を介して、企業等の意見・要請を得る。この意見・要請を基に、教育課程編成委員会により、現場と温度差のない、専門的で実践的な職業教育を行うための授業内容及びカリキュラムを作成していくことを目的とし、基本方針に掲げている。</p> <p>(2)教育課程編成委員会等の位置付け</p> <p>教職員研修会により研修(校内教職員研修、公開授業企業参観、教員インターンシップ、関係者団体研修、専修各種学校関連団体等研修)の実施結果を踏まえ、学科教員でカリキュラムの見直し案を作成。研修結果及び教員からの意見に加え、業界の動向や本校関係諸情報の収集等をし、年に2回開催される教育課程編成会議(教育課程編成委員で構成)にて図る。会議で出されたカリキュラム改善に対して意見をご提案頂き、組織として教育課程の編成に反映させることを検討し決定したものについては導入。今以上に実践的な教授内容を実施する。</p> <p>(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">平成〇年〇月〇日現在</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>船木 忠</td> <td>松江市役所 子育て部</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>種平 知美</td> <td>学校法人坪内朋和学園 育英北幼稚園</td> <td>平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>山本 優子</td> <td>学校法人坪内朋和学園 育英保育園</td> <td>平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>坪内 浩一</td> <td>学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校</td> <td>平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大島 宏美</td> <td>学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校</td> <td>平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土田 泰聖</td> <td>学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p> <p>(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期</p> <p style="text-align: center;">年間開催数:2回 開催時期:10月 2月</p> <p>(開催日時)</p> <p>平成25年度 ・10月28日 15:00～16:00 ・2月 4日 14:00～15:00</p> <p>平成26年度 ・10月 1日 15:30～16:30 ・2月 2日 15:30～16:30</p> <p>平成27年度 ・10月27日 15:30～16:30 ・2月 1日 15:30～16:30</p> <p>平成28年度 ・10月26日 9:30～10:30 ・2月13日 15:30～16:30</p> <p>平成29年度 ・10月11日 15:30～16:30 ・2月 5日 15:30～16:30</p> <p>平成30年度 ・10月、2月(開催予定)</p> <p>(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況</p> <p>保育士として求められる文章表現能力を向上するために、一般教養に「文章表現・日誌指導Ⅰ」を設けた。保育技術の向上のために、選択科目として「こどもとピアノ」及び「幼児体育Ⅰ、Ⅱ」の授業コマ数を増やした。また、教育の質向上のためにアクティブ・ラーニングを取り入れる等、学生の主体性が伸びるような授業展開となるよう教員は努力する。</p>				名前	所属	任期	種別	船木 忠	松江市役所 子育て部	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①	種平 知美	学校法人坪内朋和学園 育英北幼稚園	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③	山本 優子	学校法人坪内朋和学園 育英保育園	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③	坪内 浩一	学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)		大島 宏美	学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)		土田 泰聖	学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
名前	所属	任期	種別																												
船木 忠	松江市役所 子育て部	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①																												
種平 知美	学校法人坪内朋和学園 育英北幼稚園	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③																												
山本 優子	学校法人坪内朋和学園 育英保育園	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③																												
坪内 浩一	学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)																													
大島 宏美	学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)																													
土田 泰聖	学校法人坪内学園 山陰中央専門大学校	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)																													
<p>2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係</p> <p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>校内で学習した内容と実習先での状況を踏まえ、援助計画を理解し、援助プログラムの立案・実践を通して、保育士の態度と技術を習得することを基本方針としている。</p> <p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容</p> <p>現場の実態に応じて、2年間を通して段階的に知識・技術を習得していけるよう実習先への巡回、園との情報交換を行いながら校内および実習先において段階的に指導を行う。</p> <p>(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な科目について記載。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育実習Ⅰ</td> <td>学内での学びを基礎として、保育所の機能、子どもや保育者についての理解を目的として学外で実習する。施設での実習を通して施設の現状を視察し、施設、子ども、保育士、その他の専門職について体験を通して学ぶ。</td> <td>坪内宝珠会たまち乳児保育園、坪内朋和学園育英保育園、みつき福祉会みのり保育園、米子福祉会加茂保育園、尚徳福祉会認定こども園ベアーズ、社会福祉法人わたりはし保育園、小山福祉会おやま保育園など</td> </tr> <tr> <td>保育実習Ⅱ</td> <td>保育実習Ⅰで修得した知識や理解したことをさらに専門的知識として深くするため、保育に参加する。</td> <td>みつき福祉会みつき乳児保育園、しらゆり会しらゆり保育園、松江福祉会マリン保育所、おつか福祉会おつか保育園、ひまわり福祉会ひまわり第2保育園、境港保育会みなと保育園、学校法人かいけ幼稚園認定こども園かいけ心正こども園など</td> </tr> <tr> <td>福祉・社会Ⅰ</td> <td>校外で体を動かし、学生間の親睦を深める。歌唱・演奏や製作、レクリエーションなど、日頃の学習成果を学習発表会としてステージで発表する。就職へ向け履歴書、面接などの指導を行い、企業・法人ガイダンスへ参加する。</td> <td>島根県立青少年の家(サン・レイク)、松江市教育委員会、島根県社会福祉協議会、山陰中央新報社、BSS山陰放送、日本海テレビ、NHK松江放送局、誠和会みなと保育園、社会福祉法人はなぶさ玉湯さくら保育園など</td> </tr> <tr> <td>福祉・社会Ⅱ</td> <td>歌唱・演奏や製作、レクリエーションなど、日頃の学習成果を学習発表会としてステージで発表する。企業等の見学、体験活動を行う。また、就職へ向け履歴書、面接などの指導を行う。</td> <td>松江市教育委員会、島根県社会福祉協議会、山陰中央新報社、BSS山陰放送、日本海テレビ、NHK松江放送局、島根ARSOAなど</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	保育実習Ⅰ	学内での学びを基礎として、保育所の機能、子どもや保育者についての理解を目的として学外で実習する。施設での実習を通して施設の現状を視察し、施設、子ども、保育士、その他の専門職について体験を通して学ぶ。	坪内宝珠会たまち乳児保育園、坪内朋和学園育英保育園、みつき福祉会みのり保育園、米子福祉会加茂保育園、尚徳福祉会認定こども園ベアーズ、社会福祉法人わたりはし保育園、小山福祉会おやま保育園など	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰで修得した知識や理解したことをさらに専門的知識として深くするため、保育に参加する。	みつき福祉会みつき乳児保育園、しらゆり会しらゆり保育園、松江福祉会マリン保育所、おつか福祉会おつか保育園、ひまわり福祉会ひまわり第2保育園、境港保育会みなと保育園、学校法人かいけ幼稚園認定こども園かいけ心正こども園など	福祉・社会Ⅰ	校外で体を動かし、学生間の親睦を深める。歌唱・演奏や製作、レクリエーションなど、日頃の学習成果を学習発表会としてステージで発表する。就職へ向け履歴書、面接などの指導を行い、企業・法人ガイダンスへ参加する。	島根県立青少年の家(サン・レイク)、松江市教育委員会、島根県社会福祉協議会、山陰中央新報社、BSS山陰放送、日本海テレビ、NHK松江放送局、誠和会みなと保育園、社会福祉法人はなぶさ玉湯さくら保育園など	福祉・社会Ⅱ	歌唱・演奏や製作、レクリエーションなど、日頃の学習成果を学習発表会としてステージで発表する。企業等の見学、体験活動を行う。また、就職へ向け履歴書、面接などの指導を行う。	松江市教育委員会、島根県社会福祉協議会、山陰中央新報社、BSS山陰放送、日本海テレビ、NHK松江放送局、島根ARSOAなど													
科目名	科目概要	連携企業等																													
保育実習Ⅰ	学内での学びを基礎として、保育所の機能、子どもや保育者についての理解を目的として学外で実習する。施設での実習を通して施設の現状を視察し、施設、子ども、保育士、その他の専門職について体験を通して学ぶ。	坪内宝珠会たまち乳児保育園、坪内朋和学園育英保育園、みつき福祉会みのり保育園、米子福祉会加茂保育園、尚徳福祉会認定こども園ベアーズ、社会福祉法人わたりはし保育園、小山福祉会おやま保育園など																													
保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰで修得した知識や理解したことをさらに専門的知識として深くするため、保育に参加する。	みつき福祉会みつき乳児保育園、しらゆり会しらゆり保育園、松江福祉会マリン保育所、おつか福祉会おつか保育園、ひまわり福祉会ひまわり第2保育園、境港保育会みなと保育園、学校法人かいけ幼稚園認定こども園かいけ心正こども園など																													
福祉・社会Ⅰ	校外で体を動かし、学生間の親睦を深める。歌唱・演奏や製作、レクリエーションなど、日頃の学習成果を学習発表会としてステージで発表する。就職へ向け履歴書、面接などの指導を行い、企業・法人ガイダンスへ参加する。	島根県立青少年の家(サン・レイク)、松江市教育委員会、島根県社会福祉協議会、山陰中央新報社、BSS山陰放送、日本海テレビ、NHK松江放送局、誠和会みなと保育園、社会福祉法人はなぶさ玉湯さくら保育園など																													
福祉・社会Ⅱ	歌唱・演奏や製作、レクリエーションなど、日頃の学習成果を学習発表会としてステージで発表する。企業等の見学、体験活動を行う。また、就職へ向け履歴書、面接などの指導を行う。	松江市教育委員会、島根県社会福祉協議会、山陰中央新報社、BSS山陰放送、日本海テレビ、NHK松江放送局、島根ARSOAなど																													

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針			
<p>教員に対し、企業・関係施設・業界団体等との連携を通じ、現場の最新の知識及び技能を修得させるとともに、職務の遂行に必要な能力及び資質等の向上を図ることを目的とした研修のために年間計画を立てて実施していくことを基本方針とする。学校法人坪内学園山陰中央専門大学校教員研修諸規定にも目的として掲げている。</p>			
(2) 研修等の実績			
① 専攻分野における実務に関する研修等			
<p>教員インターンシップ(社会福祉法人 つわぶき つわぶきこども園)          ・実施期間: H29年8月7日          教員インターンシップ(介護老人福祉施設 ゆうなぎ苑)          ・実施期間: H29年8月7日          教員インターンシップ(社会福祉法人 山陰家庭学院 障害者支援施設 はばたき)          ・実施期間: H29年8月24日          教員インターンシップ(認定こども園 かいけ心正こども園)          ・実施期間: H29年9月20日</p>			
② 指導力の修得・向上のための研修等			
<p>・本校教員対象の公開授業(園関係者、学校長、こども総合学科教員が参加。教授方法や内容などについて意見交換を実施)          H29年6月16日、7月21日、12月15日</p>			
(3) 研修等の計画			
① 専攻分野における実務に関する研修等			
<p>教員インターンシップ(社会福祉法人 みつき福祉会 みのり保育園)          ・実施期間: 未定</p>			
② 指導力の修得・向上のための研修等			
<p>・本校教員対象の公開授業(園関係者、学校長、こども総合学科教員が参加。教授方法や内容などについて意見交換を実施)          H30年6月15日、7月20日、12月21日</p>			
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1) 学校関係者評価の基本方針			
<p>教育活動その他の学校運営について、目標の達成状況や取組の適切さなどを評価し、学校としての組織的、継続的な改善を図ること、評価結果の公表・説明責任を果たし、企業、保護者、地域住民などから理解と参画を得て、学校・企業・団体・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること、評価結果に応じて改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保障し、その向上を図ることを目的とし、基本方針とする。</p>			
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1) 教育理念・目標	基準1教育理念・目標・育成人材像		
(2) 学校運営	基準2学校運営		
(3) 教育活動	基準3教育活動		
(4) 学修成果	基準4学修成果		
(5) 学生支援	基準5学生支援		
(6) 教育環境	基準6教育環境		
(7) 学生の受入れ募集	基準7学生の募集と受け入れ		
(8) 財務	基準8財務		
(9) 法令等の遵守	基準9法令等の遵守		
(10) 社会貢献・地域貢献	基準10社会貢献		
(11) 国際交流			
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3) 学校関係者評価結果の活用状況			
<p>教育活動及び学校運営において委員から評価は概ね高く、今後もひきつづき、より職業実践に即した教育活動及び学校運営となるよう意見を頂戴している。意見の活用状況については、ホームページに収支計算書など財務関係情報を公開したことがあげられる。</p>			
(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成30年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
広江 みづほ	松江市役所 総務部	平成29年6月1日～平成31年3月31日(1年9か月)	地域の地方公共団体の関係者
舟木 誠一	一般社団法人 島根県自動車整備振興会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
内田 真理	社会福祉法人 坪内宝珠会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
目次 宗生	社会福祉法人 松江市社会福祉協議会	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校の専門分野における業界関係者
永島 一雄	学校法人 永島学園	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	中学校、高等学校等の校長、進路指導担当者等
日野 修一	昭和商事株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	地域住民
青山 祐一	山陰中央専門大学校 PTA会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	PTA
錦織 澄	税理士法人 錦織会計事務所	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	学校運営に関する専門家
田中 健	ネットトヨタ島根株式会社	平成30年2月1日～平成31年3月31日(1年1か月)	卒業生
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期			
<p>(ホームページ)・広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )          URL:http://sicc.sctg.ac.jp</p>			

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業との連携にあたり、本校ホームページ等にて、建学の精神、教育目標、学生のキャンパスライフなどに加え自己評価結果等を公表し情報提供している。また、学校行事である山陰中央フェスタや公開授業にご参加いただき、アンケートの実施、意見交換などを行うことで本校の情報を提供している。情報提供することにより、企業等の関係者が本校についての理解を深めるとともに、学校がより実践的な学習の場となることを目的及び基本方針として位置付けている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建学の精神、学科教育目標、学年教育目標、特色</li> <li>● 校長名、所在地、連絡先等</li> <li>● 学校の沿革</li> <li>● その他諸活動に関する計画(就職活動計画、年間行事計画)</li> </ul>
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入学者に関する受け入れ方針、入学者数、収容定員、社会人入試</li> <li>● カリキュラム(科目、単位、授業時数)</li> <li>● 進級、卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準など)</li> <li>● 取得目標資格、検定</li> <li>● 就職内定率、卒業後の進路(就職先)</li> </ul>
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教員氏名、専門性(一部)</li> </ul>
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業には実践に即した教材を使用</li> <li>● 専門士の取得を目指す</li> <li>● 実習授業の実施</li> <li>● 就職支援等への取組み(校外企業ガイダンス実施、企業等との連携による具体的な取組(保育・教育実習))</li> </ul>
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校行事への取り組み状況(山陰中央フェスタ)</li> <li>● 課外活動(ボランティア活動、部活動)</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生支援への取組状況(学生会館の整備)</li> </ul>
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生納付金の取扱い(金額、納入時期等)</li> <li>● 活用できる経済的支援措置の内容など(奨学金制度、教育訓練給付金制度、学資支援制度、学校独自の各種減免制度)</li> </ul>
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収支計算書、貸借対照表(HPで公開)</li> </ul>
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己評価、学校関係者評価の結果</li> <li>● 評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法 山陰中央専門学校パンフレット・マイキャンパスガイド・学生募集要項・ホームページ

URL:<http://sicc.sctg.ac.jp>

授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報リテラシーと処理技術	情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習することにより、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。	1 ②	15	2	○			○		○	
○			英語コミュニケーション	授業の最初に、英語表現の基礎となる文法事項や基礎構文の復習及び練習を行う。その後、保育園でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通じて、保育者と子どもや保護者のコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方を学習する。	1 ②	15	2	○			○		○	
○			健康科学	健康づくりの第一歩は自身の身体および精神がどのような状態にあるか正しく理解することであり、それぞれの現状を踏まえて健康を保持増進していくための判断材料を増やしていく。本科目では、健康的な生活設計、運動の基礎理論、運動の生理、運動処方および救急法についての基礎的な知識を現代社会との関わりから考え、ヘルスポモーションへの理解を深め、健康で豊かな生活を送る意義を理解する。	1 ③	13	1	○			○		○	
○			スポーツ（実技）	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けるため、各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的のスポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。ニュースポーツを含む各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図りながら楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。	1 ②	15	1			○	○		○	
○			カリキュラム論 I	乳幼児における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人一人に即した保育の実践能力を培う。	2 ① ②	15	2	○			○		○	
○			ビジネス能力	ビジネスとコミュニケーションの基本および仕事の実践について学ぶ。また、過去問題や練習問題を解く。	2 ①	15	2	○			○		○	
○			保育原理	本講義では、幼児期の大切さを理解することを中心に保育の基本と根本概念を学ぶ。保育の実践を支える理論的な基礎を構築するために、保育者が人をどう理解して、育てる営みへつなげてゆくのかを学ぶ。また、現代に求められている「保育」に必要なサービスを幅広く学んでいく。	1 ②	15	2	○			○		○	
○			教育原理	教育学の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、教育の意義と目的、近代学校の成立過程、教師の仕事の役割、現代日本の学校教育制度、授業における基本的な指導原理について学ぶことを目的とする。学習を通して教育学および児童福祉の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で、「よりよい教育とは何か」を考える力を養う。	1 ①	15	2	○			○		○	
○			児童家庭福祉	本講義では、児童家庭の生活実態と社会情勢、福祉需要について理解を深め、児童の権利の視点から児童福祉の諸領域を実際的に学ぶとともに、児童・家庭福祉制度の概要及び関連する他の法制度の概要、並びに相談援助活動の実践について理解する。	1 ②	15	2	○			○		○	
合計														
					科目			単位時間(単位)						

授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会福祉論	社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得を目指す。具体的には、現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、保育士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史、社会福祉の法体系運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と今後の課題などについて学習する。	1 ①②	15	2	○			○	○		
○			相談援助	本講義では、ソーシャルワーク理論を通じ、クライアントとの援助関係の形成方法とともに面接の技法、クライアントと環境の相互作用などについて、事例ロールプレイを通じて学び、実務に直結する対人援助専門職に求められる相談援助の基本視点とスキルを習得する。	2 ③	13	1	○			○	○		
○			社会的養護	本講義では、現行福祉制度における類型別施設養護の意義と、その支援の展開についての基礎的知識を習得する。また、施設における日常生活援助、施設保育士の専門性、特別な配慮を必要とする児童への援助や保護者への援助について学ぶ。さらに、日常的なケア、リーピングケア、アフターケア、児童の権利保障及び自立支援計画などについて講義する。	2 ②	15	2	○			○	○		
○			教職論	保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎的知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。	1 ②	15	2	○			○	○		
○			発達心理学	心の機能は、感覚・知覚・認知・社会性・気質・性格・感情などさまざまな側面を見せながら、人の一生を通じて変化していく。発達はいずれも異なる様相をみせると同時に、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期、など各ライフステージにおける普遍的な特徴を持つ。発達概念及び各ライフステージにおける心理及び行動の特徴について学び、人間理解の基礎を培う。	1 ②	15	2	○			○	○		
○			教育心理学	「発達」と「学習の分野中心に展開する。教育心理学の基本事項、「発達理論」「学習理論」について学習する。基本理解を深め、「動機づけ」「学習意欲を高める支援」「社会の適応に関する問題」について考える力を身につける。	1 ③	15	2	○			○	○		
○			こどもの保健Ⅰ	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発達や身体的特徴を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習する。また、こどもの事故や安全対策について理解し、基本対応について学習する。	1 ③	15	2	○			○	○		
○			こどもの保健Ⅱ	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもに多い病気を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習する。また、こどものおかれている制度や環境を理解し、保護者支援についても学習する。	2 ①	15	2	○			○	○		
○			こどもの保健Ⅲ	講義と実技演習で実践に役立つ技術を習得できるように進める。1. 乳幼児期の特徴と観察点：身体計測技術、生理機能計測技術の学習と演習。2. 日常に必要な養護技術の学習と演習。3. 日常に多い病状と対処及び予防について学習と演習。4. 応急手当法と救急処置について学習と演習。5. 事故防止と安全対策について具体策の立案。	2 ②③	13	1	○	△		○	○		

合計

科目

単位時間(

単位)

授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授 業 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどもの食と栄養	小児期の栄養と食生活の関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者としての保育の食生活の望ましいあり方と、生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。	2	15	2	○			○	○			
○			家庭支援論	本講義では、まず現代の家族を取り巻く社会的状況の特質と子育て家庭の抱える困難、並びにこれまでに子育て支援政策の思想と現実を吟味し、どのような子育て支援が必要とされているかを明らかにする。次に、子育て支援の実態を理解し、今日求められている幼稚園・保育所における子育て支援の機能と保育者の役割についての認識を深めることを目指す。	1 ② ③	15	2	○			○	○			
○			教育課程論	どのようなことを大切にして(教育・保育目標)、どのような方法で(教育・保育方針)、どのようなことを(教育・保育内容)、どの時期に(教育・保育期間)していくかという全体計画が教育課程・保育課程である。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。	1 ②	15	2	○			○	○			
○			保育内容総論	保育内容の5つの領域は、保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。	1 ②	13	1	○			○	○			
○			保育内容(健康I)	保育内容を構成する健康について、乳幼児の健康に及ぼす保育の可能性について学ぶ。保育における健康な生活、健康への関心、健康・衛生・安全管理について学ぶ。保育の全体構造における健康に関して総合的に指導・援助が行えるよう理論や知識を学ぶ。	1 ③	8	1	○			○		○		
○			保育内容(人間関係)	子どもの人間関係の発達、人間関係の広がりといった子ども同士の間関係の基礎を学ぶ。人間関係の発達を促す保育者の関わり方について学習する。幼児を取り巻く人間関係(地域社会の役割・保護者支援・子育て支援)について学習する。	1 ③	8	1	○			○	○			
○			保育内容(環境)	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」から、人的・物的社会的環境及び自然環境の持つ役割や意味を、こどもの発達と豊かな環境とのかかわりについての知識を習得する。また、植物の栽培や、物・自然物とかかわる保育演習を通して、こどもの生命への畏敬の念や探求心を養っていくことの重要性を習得する。	1 ③	8	1	○			○		○		
○			保育内容(言葉)	保育内容を構成する言葉について理解させ、子どもの言葉と言語環境について学び、保育者として絵本・童話・紙芝居等の言語教材について理解し、保育の全体構造における言葉に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。	1 ②	8	1	○			○		○		
○			こどもとリズム表現	領域「表現」についての基本的な考え方を学ぶ。身体表現活動を実践する。楽器を使った表現活動を実践する。うた・絵本・ペープサート等を活かした表現活動を実践する。オリジナルの楽器・人形。うたの作成と発表、振り返りをする。	1 ②	13	1	○			○	○			
合計															

科目

単位時間(

単位)



## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 平成30年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			乳幼児保育	わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。	2	15	2	○			○	○					
○			障害児保育	1. 障害児に対する基本姿勢。 2. 関連の法律について学ぶ。 3. 障害について学ぶ。 4. 自閉症児への支援について学ぶ。 5. 児童福祉施設での支援について学ぶ。	2 ②	15	2	○			○	○					
○			社会的養護内容	本講義では、児童福祉施設で生活している子どもたちの心を理解し、さらに子ども・家族への援助や支援の方法を学ぶ。児童福祉施設の援助者に必要な技術と社会資源の活用法を事例検討等を通して深める。	2 ③	13	1	○			○	○					
○			保育相談支援	本講義では、保育実践に活用される相談支援の内容と方法について、基礎理論および具体的な実践事例を含めて学んでいく。	2 ③	13	1	○			○	○					
○			保育・教職実践演習	将来、教員になる上で自ら課題を自覚し、その克服と習得に努め教職生活を円滑にスタートできることを目的とするものである。教員として必要な使命感、責任感、人間関係調整力等の資質の向上のため、小グループの話し合い、集団討論等、他者との関わりを通じて培っていく。	2 ②	15	2	○			○	○					
○			こどもと音楽	1. 課題曲の練習に取り組み、ピアノの演奏能力を高める。 2. 弾き歌いの実技試験の練習及び試験を実施する。 3. レポート設題に関する学習に取り組む。	2 ① ② ③	15	2			○	○	○					
○			こどもと言語表現	言葉の仕組みを知り、年齢別に発達を知り援助の方法を学ぶ。また、言葉掛けと子どもの発達についての関係性を知る。	2	8	1	○			○	○					
○			こどもと体育Ⅰ	こどもの心身の発達特性を理解し、幼児および児童を対象とした体育的活動の指導者として必要な体育に関する基礎的知識と技術を学習する。また、こどもの健全な身体発達を促すと同時に、こどもが主体的に楽しく安全に身体的を行うことができるための指導方法を習得する。	2	8	1			○				○			
○			こどもと体育Ⅱ	幼児および児童を対象とした運動指導の計画・実践・評価などの実践的力量的形成を目的として、こどもにとっての運動の意味や、こどもの発育・発達における運動の可能性、現代のこどもを取り巻く状況について学習する。また、こどもの運動指導に関わる歴史や海外での取り組みなども取り上げ、グループごとに運動指導を計画・実践し評価しあうことで実践力を高める。	2	8	1			○				○			
合計																科目	単位時間(単位)

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 平成30年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			こども学概論	様々な時代・社会・文化における「こども」の在り方や捉えられ方に注目し、養育者や保育者の在り方について考察を加える。	1 ②	15	2	○			○			○			
○			こどもと文学	1. 優れた児童文学作品に多く触れることで、感動や笑い、驚きなどを体感する。 2. 現場で活用できる「ことばあそび」を実際に楽しんでもみる。 3. グループワークを主に意見交換しながら、作品の魅力についての理解を深める。	2 ③	13	1	○			○				○		
○			図画工作Ⅰ	造形の基礎・基本、表現技法のあり方、美術の専門知識などを学ぶ。子どもの絵の表現の発達の道筋をたどりながら、幼児・児童に即した造形表現の教材を視野に入れて、子どもが楽しく造形活動ができる教材のあり方、支援の仕方、指導のあり方について考慮し、理論と実技の両面から実践的に学習する。	1 ② ③	8	1	○									
○			こどもと造形Ⅰ	幼児の造形教育の指導者として、学習の進め方・造形表現の過程・造形の分野と指導領域について学習し、平面造形・立体造形の内容について学習する。	1 ②	8	1	○			○					○	
○			こどもと造形表現Ⅰ	こどもが発達とともに体験を通して感性を広げ、興味も広げていくことをふまえ、こどもの可能性を引き出す手助けができるよう発達段階を考慮しながら製作活動を行う。	2	8	1				○					○	
○			こどもと造形表現Ⅱ	こどもと造形表現Ⅰで学習した内容をふまえ、教材のあり方、支援の仕方、指導のあり方について学習する。また、こどもが表現する場面のことまで想定した制作活動の指導法について学習する。	2	8	1				○					○	
○			こどもと音楽表現Ⅰ（ピアノ）	ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は、各自の習得度に応じた個別指導も行う。また、保育において、子どもの発達段階に応じた音楽活動の内容を理解し、こどもの音楽表現を引き出すための知識と、実践的な技能を身に付ける。	1 ①	40	5			○	○					○	
○			こどもと音楽表現Ⅱ（声楽）	こどもの発声器官は未発達の状態であることをふまえ、正しい発声・音程・リズムで範唱して導くための指導法を保育・教育現場で使用される歌唱教材を通して実践の場で応用できる力を養う。	2	20	2			○	○			○			
○			保育実習指導Ⅰ	実習に対し学生の関心を深め、不安を解消するように、また、具体的なことを解りやすく伝える。実習にスムーズに入れるよう指導する。保育実習Ⅰを振り返り、自己の課題の明確化を図る。また、グループワークを通して、子どもの発達段階に応じた対応方法について、意見交換をし情報の共有化を図り学びを深める。実習を体験し、実際に子どもに関わり、イメージを持ち、次の実習に向けての指導案を立案する。反省を踏まえ、保育実習Ⅱに向けて自己目標を立てる。	1 ① ② ③	15	2	○			○					○	
○			保育実習Ⅰ（実習）	学内での学びを基礎として、保育所の機能、子どもや保育者についての理解を目的として学外で実習する。施設での実習を通して施設の現状を観察し、施設、こども、保育士、その他の専門職について体験を通して学ぶ。	1 ①	80	4			○		○				○	○

合計

科目

単位時間(

単位)

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰで学んだことを活かし指導案・日案を立案し、模擬授業を行い不安なく総合実習に取り組むことが出来るようにする。また、保育実習Ⅰを振り返り、自己の課題の明確化を図る。さらに、保育実習Ⅰで学んだことの情報の共有化を図り、実習での学びを活かし今後、学生生活で身につけたいことを文章化する。	2	13	1	○			○		○		
○			保育実習Ⅱ (実習)	保育実習Ⅰで習得した知識や理解したことをさらに専門的知識を深めるため、保育に参加する。	2	40	2			○		○	○		○
○			憲法	社会福祉における法の作用や役割を学び、社会福祉の専門家として必要とされる法律の基本的知識を習得する。また、憲法、民法でも、行政法については、条文や判例の検討も含めて研究する。	1 ②	15	2	○			○		○		
○			国語Ⅰ	各自の言語生活の向上と世界の言語のひとつとして認識力を持って、母国語としての日本語を尊重し、良くしようとする態度と実践力を養う。	2 ①	15	2	○			○		○		
○			教育相談	来談者中心カウンセリング、行動カウンセリング、グループカウンセリング等の理論、技術を講義やロールプレイ(役割演技)を実施しながら、一人ひとりが確実に体得できるよう進めていく	2 ①	13	1	○			○				○
○			教育制度・行政論	教育法規に関する基礎的な知識を身につける。その知識を用いて学校における法的な課題に対応できるようになることを目指す。	2	15	2	○			○		○		
○			発達検査法	平成31年度初開講科目につき作成中	2	15	2								
○			教育方法論	教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育(保育)現場における様々な課題を解決する教育(保育)方法とその活用についての理解を深め、保区者として必要な資質を培う。	2	15	2	○			○		○		
○			カリキュラム・マネジメント	子どもの姿や地域の実情を踏まえた教育活動、PDCAサイクルについて、保護者や地域の人を巻き込んだ活動について、学校保健計画・学校安全計画について、「指導計画」(各月齢の年間計画、月案、週案、日案)について学習する。	1 ① ② ③	13	1	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどものアンサンブルⅠ	アンサンブルは、人と人のつながりで生まれる。また、学校と園、地域と学校など、つながりは様々である。現場での活動に直結する合唱・合奏などの演奏経験を積む。また、演奏会の企画・発表を学生主体で行う。	1 ① ② ③	15	2			○	○		○		
○			こどものアンサンブルⅡ	こどものアンサンブルⅠで学習・実践した内容をふまえ、より高度な合唱・合奏、より豊かな表現を目指して演奏経験を積む。	2	50	6			○	○		○		
○			こどもの音楽遊び	生活の中で活用される手遊び、うた遊びの経験を積むとともに、オリジナルの劇遊びを計画的に創作し、表現力豊かに実演する能力を養う。	2	15	2			○	○		○		
○			こどものレクリエーションⅠ	・発達段階にあった手作りおもちゃを製作し、園児と実際に遊ぶことにより、振り返りをする。 ・「こどもとアンサンブルⅠ」で練習・企画した校内ミニコンサートに園児を招待し発表する。 ・松江市の保育園の作品展を鑑賞する。 ・保育園等での遠足やバスの移動中のレクリエーションをする。 ・松江市の子育て支援の調べ学習をする。(フィールドワーク)	1 ① ② ③	24	3			○	○		○		
○			こどものレクリエーションⅡ	・こどものレクリエーションⅠで制作したおもちゃでの取り組みを踏まえ、新たな集団を対象とした活動に向けた制作を行う。 ・松江市の保育園の作品展をもとに、幼児の作品の展示方法、導線など運営に関わる環境設定について学習する。 ・保育園等での主要な活動の際のレクリエーションを習得する。 ・松江市の子育て支援の調べ学習をする。(フィールドワーク)	2	24	3			○	○		○		
○			文章表現・日誌指導Ⅰ	1.主張を絞り構成を考える方法を学ぶ。 2.自分の主張を裏付ける情報収集の方法と引用の方法、参考文献リストの作成方法を学ぶ。 3.課題に取り組み、引用しながら持論を展開する方法を学ぶ。自己点検をする。	1 ① ② ③	24	3	○			○		○		
○			文章表現・日誌指導Ⅱ	1.主張を絞り構成を考え、文章で表現する。 2.自分の主張を裏付ける情報収集を正確に行い、参考・引用文献リストを5音順およびアルファベット順で作成する。 3.課題に取り組み、引用しながら持論を展開する方法を習得する。	2	13	1	○			○		○		
○	○		こどもとピアノ	ピアノ初心者から既習者まで、個々の習熟度に合わせたピアノ実技、弾き歌いのレッスンを中心に行い、保育者として必要とされる実践的な演奏技術や指導法を学ぶ。	1 ① ② ③	32	3			○	○		○		
○	○		幼児体育Ⅰ	幼児期の子どもたちにとって「遊び」は知的・情緒的・身体的な発育発達うえで非常に重要な要素を含むものであることを理解し、それを踏まえたうえで、対象者に対してどのような運動プログラムを選択するための材料と実践できるレパトリーを増やすための実践を繰り返す。	1 ① ② ③	32	3			○	○	○	○		
合計															
					科目	単位時間(単位)									

## 授業科目等の概要

(教育・福祉専門課程こども総合学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○	○		幼児体育Ⅱ	幼児期の子どもにとって「遊び」は知的・情緒的・身体的な発育発達のうち非常に重要な要素を含むものであることを理解し、それを踏まえうえて、対象者に対して適切な運動プログラムを実践できるよう模擬保育をとおして実践力を高めていく。	2	38	3			○	○	○	○		
○			福祉・社会Ⅰ	カッター研修、アイスブレーキング、芸術鑑賞及び考察、発表会、総合体育、就職対策。	1 ① ② ③	53	5	○		△	○	○	○		○
○			福祉・社会Ⅱ	芸術鑑賞及び考察、発表会、総合体育、ボランティア活動活動、就職対策。	2 ① ② ③	45	7	○		△	○	○	○		○
合計					67科目		単位時間(							128単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業科目の履修又は単位取得の認定について 授業科目の履修の認定又は単位習得の認定は次の条件をともに満たした時に行うものとする。 (1) 授業科目の実施授業時間数は、教育科目時間配分と出席時間が指定基準時間数以上出席していること。 (2) 試験その他の審査による学習の評価が「C(可)」以上であること。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	12週

**(留意事項)**

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。